

秋田県立大学「人類の持続可能な発展に資する科学技術」
「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	新資料による金子洋文研究		
研究代表者	高橋秀晴	役職	教授
フリガナ	タカハシヒデハル	学位	教育学修士
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	takahashi_hideharu@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者(学内)	なし		
主な共同研究者(学外)	なし		
研究の内容			
<p>秋田県秋田市土崎で創刊された雑誌『種蒔く人』（1921年～1923年）の主要同人であった金子洋文（1894年～1985年）の全遺品が秋田市立土崎図書館に寄贈されたのは、2004年10月のことである。その後「金子洋文資料目録」（秋田市立土崎図書館、2007年3月）は作成されたものの、資料に関する具体的な研究はほとんど進んでいない。高橋は、遺族（洋文三女金子功子氏）と土崎図書館の要請により、約10000点に及ぶ資料の分析に着手することとなり、未発表の資料群によって、主として『種蒔く人』『文芸戦線』に関わる近代文学史の一部分を補うことを遠望しつつ、金子洋文の全体像を明らかにする。研究対象となる寄贈資料の内訳は、以下の通りである。</p> <p>a 書簡…武者小路実篤、有島武郎、志賀直哉、青野季吉、川端康成らからの来簡等、4155点。 b 自筆原稿…小説「接吻」、戯曲「塔」、脚本「兄いもうと」、未発表作品を含む、742点。 c 草案・断片…「海外における「種蒔く人」運動の研究」等、326点。 d ノート…「大正十年當用日記」「ある夏の生活＝飢えたるロシアを救え＝」等、190点。 e 雑誌…『秋田』『秋田縣人雑誌』『月刊さきがけ』等、1545点。 f 雑誌切り抜き…『新潮』『文芸』『文芸市場』等、201点。 g 洋文執筆新聞切り抜き…「武者小路実篤論①～④」、「文芸家協会の諸問題」等、189点。 h 新聞切り抜き…「プロ文躍動」「花やかな「文戦時代」」等、87点。 i 台本…136点、舞台装置図…19点、プログラム…213点 j 写真…『種蒔く人』関係、『文芸戦線』関係等、111点。 k 冊子…29点、一括資料…63点、その他…約2000点</p> <p>「a」「j」によって、同時代の作家たちとの交流状況が判明する。たとえば、武者小路実篤との関係、白樺派（有島・志賀）や新感覚派（川端）との距離感等が明らかとなろう。言うまでもなく、これらは差出人である作家たちを研究するための資料ともなる。「b」「c」によっては、金子洋文の構想や推敲過程を知ることができる。埋もれてしまっている作品や未発表作品の発掘も期待できる。「d」は、年譜を裏付ける証拠となる。特に大正10年前後のものは、『種蒔く人』創刊の事情を解明する上で重要である。「e」については、図書館等にも残っていない貴重な雑誌が多数含まれている。秋田関係のものは、当時の地方における同人誌の状況を知る手掛かりとなる。「f」「h」は、洋文の関心の在りどころを示す資料である。「g」には、今までの洋文集に収録されていない文章が散見される。「i」は、劇作家としての側面を明らかにするための資料となる。</p> <p>以上、寄贈資料を用いて、金子洋文の交友状況、創作方法、私生活等について、解明するつもりである。</p>			

研究の独自性・アピール点

ば、これまで『種蒔く人』の主要同人として取り上げられることが多かった金子洋文だが、今回の新資料によって多彩な人間関係が明らかとなる。その結果として、プロレタリア文学と白樺派・新感覚派との交流状況が新たに判明することが予想される。これは文学史の読み替えにも繋がり得る問題である。また、大量の自筆原稿によって作品の生成過程が明らかとなるが、それによって今まで等閑視されてきた洋文の創作意識が解明されるだろう。さらに個人的な情報もあるため、自著で述べていることが裏付けられると同時に、新たな事実も多数判明することが予想される。つまり、金子洋文の全体像が明らかになるのである。

期待される成果・波及効果

貴重な資料が公になることで関連分野の研究が進む。全国からの問い合わせや資料請求があるだろうし、学会や研究会の開催等も導く。秋田県の文化・学術資源ともなり得るし、次世代の教育にも資する。本研究の副次的効果として、そうした形での地域活性化への貢献も期待できるだろう。

関連する主な業績

高橋秀晴「小牧近江寄託資料の実際」（『社会文学』第35号、pp. 33~42、2012年2月）査読あり
高橋秀晴「「ハノイにのこせ人のあと」—小牧近江と小松清—」（『秋田文学』第20号、pp. 67~74、2011年9月）査読なし
高橋秀晴『秋田—ふるさとの文学』（共編著、無明舎出版、全156頁、2010年4月）
高橋秀晴『秋田近代小説そぞろ歩き』（秋田魁新報社、全177頁、2010年3月）
高橋秀晴「未発表書簡が語る小牧近江の新側面」（『秋田文学』第18号、pp. 68~78、2009年9月）査読なし
高橋秀晴「小牧近江と環「日本海」—新規寄託資料の可能性を遠望しつつ—」（『社会文学』第20号、pp. 117~126、2009年2月）査読あり

キーワード

金子洋文 小牧近江 今野賢三 種蒔く人 プロレタリア文学